

15. 高知県看護協会との連携—生涯学習の拠点としての役割

1) 看護協会役員および委員

本学の教員は高知県看護協会の役員および委員の役割を担っており、高知県の看護の質を高めるために各分野において活動を行ってきた。令和3年度は12名の教員が以下の委員を担当した(表1参照)。

表1 高知県看護協会役員・委員・受託事業担当者

役員・委員名	教員名
高知県ナースセンター運営協議会 委員	藤田 佐和
第1副会長	森下 安子
在宅ケア領域看護師研修検討会 委員長	
特別委員会：地域包括ケア検討委員会 委員	
常任委員会：災害看護委員会 委員	竹崎 久美子
新人看護職員研修検討会 委員長	長戸 和子
常任委員会：認定看護管理者教育運営委員会 委員	山田 覚
保健師助産師看護師実習指導者講習検討会 委員	森本 悦子
職能委員会：助産師職能委員会 委員	嶋岡 暢希
高知県小児救急電話相談事業 委員	高谷 恭子
在宅ケア領域看護師研修検討会 委員	森下 幸子
特別委員会：訪看ST運営委員会 委員	
職能委員会：保健師職能委員会 委員	小澤 若菜
特別委員会：ナースセンター委員会 委員	
特別委員会：3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会 委員	
特別委員会：看護研究倫理審査委員会 委員	西内 舞里
常任委員会：研究学会委員会 委員	三浦 由紀子
特別委員会：3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会 委員	

2) 研修会および講習会

(1) 認定看護管理者研修

本年度はファーストレベルのみが開催され、セカンドレベルは開催されなかった。本学の教員が関わった認定看護管理者研修修了者や、本学大学院の看護管理学領域を修了して認定看護管理者の資格を獲得した者が増え、それら資格を持った修了生が中心となり講師を務める様に本研修は運営されている。その中で本学教員は、それら修了生を支える役割として、一部講義等を担当して継続的な研修支援を行っている。

表2 認定管理者研修担当者

講義名	日程、内容	教員名
組織管理論 I	日程：令和3年5月14日、15日 ・組織マネジメント概論	山田 覚
論文・レポートの書き方	日程：令和3年5月15日 ・レポートとは ・構造の基本 ・伝える内容づくり ・レポート作成の流れ ・文献の活用	山中 福子

ヘルスケアシステム論 I	日程：令和3年6月11日、12日 ・保健医療福祉サービスの提供体制 ・ヘルスケアサービスにおける看護の役割	森下 安子
人材管理 I	日程：令和3年6月21日、24日 ・看護チームのマネジメント(ファシリテーション)	内川 洋子
統合演習 I	日程：令和3年7月29日～31日 ・統合演習(アドバイザー)	三浦 由紀子

(2)高知県保健師助産師看護師実習指導者講習会

看護教育における実習の意義ならびに実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるように必要な知識、技術を習得することを目的に開催された。11名の教員が講師として参加した(表3参照)。

表3 高知県保健師助産師看護師実習指導者講習担当者

科目	時間数	教員名
看護論	3時間	森本 悦子
セルフケア理論	3時間	藤代 知美
小児看護学	3時間	高谷 恭子
看護倫理(概論)	3時間	畦地 博子
看護倫理(演習)	3時間	有田 直子
ヘルスプロモーション	3時間	小澤 若菜
精神看護学	3時間	田井 雅子
在宅看護学	3時間	川上 理子
母性看護学	3時間	渡邊 聡子
老年看護学	3時間	竹崎 久美子
家族ケア	3時間	坂元 綾

(3)臨床看護研究基礎研修

本研修は、臨床における看護研究の必要性を理解し、看護研究に取り組むための基礎知識を習得することを目的に、集合研修とオンラインを併用し開催された。5名の教員が講師として参加した(表4参照)。

表4 臨床看護研究基礎研修担当者

研修名	時間数	教員名
看護研究の基礎知識	7時間	畦地 博子 高谷 恭子
看護研究の進め方	3時間	池添 志乃
看護研究における倫理的配慮	3時間	竹崎 久美子
看護研究論文(症例研究を含む)の書き方と発表	3時間	田井 雅子

(4)高知県看護協会の教育プログラムにおける講師

高知県看護協会が主催する看護職員現任者を対象とした教育プログラムにおいて、7名の教員が講師として参加した(表5参照)。

表 5 現任者を対象とした教育プログラム担当者

研修名／内容	時間数	教員名
新人助産師合同研修プログラム／助産師として災害に備える	5 時間	渡邊 聡子
新人助産師合同研修プログラム／職業倫理	1 時間	嶋岡 暢希
医療的ケア児等支援者・医療的ケア児等コーディネーター養成研修／ 総論・支援に必要な概念	1 時間 30 分	佐東 美緒
他施設合同研修/リフレクション研修	21 時間	畦地 博子
高知県看護協会継続教育研修／ 【意思決定を支える力】ラダーレベルⅡ～Ⅲ 事例を通して学ぶ看護倫理	3 時間	三浦 由紀子

(5) 災害看護支援ナース育成研修

9 年目となる令和 3 年度の「地域災害支援ナース育成研修」は、ZOOM も活用した開催方法を模索し、初回受講者編、継続受講者編各 1 回ずつを開催した。特に実技演習を伴う継続受講者編については、幡多支部において幡多けんみん病院と渭南病院の 2 か所に参集し、それぞれに DMAT チームの応援を受けてトリアージ研修を行い、21 名の受講者を得た。初回受講者編は高知県看護協会から ZOOM で配信し、南国支部では JA 高知病院にも参集できる会場を準備し、31 名の受講者を得た。受援ガイドライン研修は幡多支部で開催し、23 名が受講した。

ZOOM 開催を取り入れることで、大人数が居住地を離れて参集し、グループワークなどを行わなくても、本来のこの研修の目的通り、支部ごとに近隣者が最寄り会場に参集し、講師の講義は ZOOM 配信するが、意見交換は近隣者が顔の見える関係づくりを兼ねて、直接対面で行うなど、工夫の余地がありそうである。支部によっては、継続受講者編はその支部の中核病院が主催して開催されるパターンも定着しており、先の見えないコロナ禍で今後も開催継続する方法が次年度も立てられている。